

た頃、丁度今のミルクのおばちゃんがお母さまの一つ上の組においでになつたの。でね、まだ一年生のお母さまにはわからないことがたくさんあつたのよ。そんなわからないことがあつたり困つたことが起つたりした時、きつとあのおばちゃんが出て来て、お母さまをかばつて下さつたのよ。それでお姉さまになつたお母さまには、赤ちゃんの時のミルクのやうに、あのおばちゃんがなくてはならない方だつたの。わかつて？ それでお家では、あのおばちゃんのこと

童話

フットボール

水谷年恵子

雲の上で雷の子供がボール遊びをしてをりました。雲の破れ目からボールが下界へ落つこつてしまひました。ボールは富士山のでつぺんへボンと落つこつて來ました。そのボールは空のお月様の十倍もあるフットボールでした。

ボンと落つこつて來たと思ふと、すぐ又雷の子供がフツ

と今でもミルクのおばちゃんツていふのよ」

×

×

種子さんは、このおはなしをきいてはじめて、ミルクのおばちゃんのおつしやつたことがわかるやうな氣がしました。(なくてはならない人になること)

この世の中で、いちばんいいことは、なんでも出來る人になることではなくて、なくてはならない人になることだといふことが、はつきりわかつたやうな氣がしました。

トボール目がけて、ドシンと天から降つて來ました。雷の子供はいきなりフットボールに抱着きました。抱着くとすぐ、雷の子供とフットボールとが一つのかたまりになつて富士山のお山のでつぺんからコロコロところがつて山の下の方へ落ちていきました。ころがつていく中に、

ビューツ

と風のやうなうなりを出しました、そしてひどい勢で、下の下の方へ迂り落ちていきました。

お山の下の野原ではいゝ心持で猪が晝寝をしてをりました。雷の子供とフットボールとの大きなかたまりが、ビューツ、ドシンと猪にぶつかりました。ぶつかつた拍子に猪は雷の子供とフットボールとの塊に手早く抱き着きました。

今度は雷の子供とフットボールと、そして猪とが大きな大きなかたまりになつて、コロコロころがつて、駿河の海へドブーン。

雷の子供は潮水を飲んだら正氣が附きました。猪は眼中へ潮水がはいつたら眼がさめました。フットボールは波に浮んで、プカ／＼／＼／＼漂つてをります。雷の子供はあはて、フットボールに抱着かうとしました。すると猪も一生懸命フットボールにつかまらうとしました。

フットボールは知らん顔をしてプカ／＼プカ／＼沖の方へ流れていつてしまひます。雷の子供と猪とが競争でフットボールを追つかけました。するとそこへ小山のやうな鯨が現はれました。鯨は雷の子と猪とが水の中でボール遊び

をしてゐるのだと思つて、自分も一緒になつて、フットボールを追つかけました。

雷の子も猪も鯨にはかなひません。フットボールは今にも鯨に呑まれてしまひさうになりました。空では父さん雷と母さん雷とが、ゐなくなつた子雷を捜し廻つてゐましたやつと駿河の海に自分の子供が半分溺れかゝつてゐるのを見附けて、それ助けよと黒雲に乗つて押出して來ました。

空も海も眞暗になつて、大夕立が一面の波の上を荒れ出しました。

コロ／＼／＼ツ

ガラ／＼／＼ツ

ピカピカピカツ

ザザザーツ。

駿河の海は大騒ぎです。

からりと空が晴れました。海は眞青に光つてゐます。も

う雷の子供も猪もみません。鯨の姿も見えませんでした。

たゞ波の上にフットボールだけが、

プカ／＼／＼／＼。

と浮んでゐました。